

県民意見募集 (パブリックコメント)等の概要とこれに対する考え方

1 県民意見募集 (パブリックコメント) の実施状況

(1)	意見募集期間	平成16年8月26日(木)~平成16年10月3日(日)
(2)	意見の提出状況	
	意見者数	のべ603件
	意見数	のべ698件
	提出方法	電子メール113件、ファクシミリ110件、郵送・持参380件
(3)	意見の内容別件数	
	・総論について	161件
	・海南高校・大成高校について	296件
	・串本高校・古座高校について	109件
	・南紀高校・熊野高校について	35件
	・新宮高校・新宮商業高校について	20件
	・和歌山工業高校・和歌山第二工業高校について	1件
	・中高一貫教育校の設置について	76件

2 提出された意見の内容とこれに対する県の考え方

総論について

項目等	意見等の概要	県教育委員会の考え方
実施時期等に関する事	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を、今、強行する必要があるのか、なぜ計画の実施を急ぐのか。 ・高校をなくすというデメリットの方が大きい。再編もやむを得ないという時期が来るまで、計画を延期できないか。 ・少子化は、前からわかっていたこと、もっと早くから計画を実行すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化による大幅な生徒数の減少や変化等の中で、活力と多様な学習ニーズに対応できる高校教育を保障するため、できるだけ早い時期に計画を実施することが必要であると考えたところです。
地域住民への説明	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や該当校に対する十分な説明がなされていたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民意見募集(パブリックコメント)案の発表以降、各地域での説明会や、「地域・学校協議会」での協議など、延べ60回以上にわたり、話し合いを行ってきました。
通学上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・遠距離通学となり、保護者の経済的負担が増加する。 ・遠距離通学が増えると、長時間通学や下宿等が必要となり、高校中退が増加する可能性があるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合等が行われた場合は、通学等において、従来に比べ負担をおかけするケースがありますが、よりよい高等学校教育を行っていくために、再編整備が必要であると考えたところです。 また、遠距離通学者に対する配慮はできるだけしていきたいと考えています。

適正規模について	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を統合しなくても、いろいろな方法により、適正規模で学校を存続させることが可能ではないか。また適正規模の設定が4学級になっているが、これ以下でもよい教育が行えるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正規模以下になると、教員の配置、学校行事や特別活動等で大きく制約され、学校の活性化が図りにくい状況が生じます。そこで、活力ある高等学校教育を保障するため、適正規模を設定したところです。
学区撤廃との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・全県一区なのに地方別の中学校卒業生徒数をもとに論じているのは不自然である、学区撤廃時の説明と矛盾する。 ・移設、統合をしなければならないのは、学区を撤廃し全県一区にしたことが原因ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・募集定員については、各地方別の中学校の卒業生数だけでなく、学区撤廃以降の地域を越えた進路状況の実態等をふまえて多角的に検討しているところです。再編整備計画も過去のそうしたデータ等もふまえながら検討したものです。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・高校教育をどうするという問題を、母校がなくなるからなどの一時的な感傷で捉えるのは適当ではない。 ・2校で教育するのと1校にまとめて教育するのでは、1人当たりの教育費がどれだけ違うか示せばよくわかる。 ・計画の発表をするなら、同時に統合後の学校の概要など、条件面の提示をすべきではないか。 ・文化的拠点として高校は必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における高等学校の役割や卒業生の母校への思い、財政的に厳しい中での教育費など、再編整備にかかわって、県民の皆様方から、様々なご意見をいただきました。今後とも、こうしたご意見等もお聞きしながら、本県の高校教育の充実に努めていきたいと考えています。

海南高校・大成高校について

項目等	意見等の概要	県教育委員会の考え方
通学上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大成高校がなくなると遠距離通学となり、経済的にも肉体的にも負担が増加する。 ・遠距離通学対策としてスクールバスの運行をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総論「通学上の課題」に同じ。
存続の必要性について	<ul style="list-style-type: none"> ・適正規模ではないが大成高校は、分校と同様に地域にとって必要な学校である。 ・小規模校だからこそゆきいとどいた教育ができるのではないか。 ・統合されると地域から若者の流出等が増加し、過疎化に拍車がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再編整備にあたっては、第一義的には、充実した教育活動をどう展開するかが大切であると考えています。また、小規模校には小規模校としての利点もありますが、弾力的な教育課程の編成や、教科・科目に応じた教員配置、学校行事や部活動の活性化が図りにくいという課題があります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・海南高校の校名を絶対変えてほしくないし、学力レベルも落とすことのないようにしてほしい。 ・海南高校と大成高校では、校風や、学業への取組なども違いすぎる。 ・少しずつ軌道に乗ってきた大成高校の単位制の取組について、どのように評価しているのか。 ・年々人気が出てきた「福祉コース」を持つ大成高校を募集停止とするのは、生徒のニーズに反するのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合した場合の学校の在り方については、両校の優れた点を生かしていくことに留意しながら、特色ある学校づくりに努めていきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・分校と同様に県外からの募集をするなどして適正規模を保てないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分校のような特殊な事情がない全日制の県立学校において、県外から募集することは、現在のところ考えていません。
統合の延期	<ul style="list-style-type: none"> ・統合するのなら今の1年生が卒業してからにすべきではないか。 ・なぜ大成高校の統合は17年度なのに、古座高校は19年度なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした意見等をふまえ、両校とも、平成18、19年度の生徒募集を行い、入学者の状況等を見て判断することにしました。
統合による影響	<ul style="list-style-type: none"> ・大成高校の募集停止が、在校生の就職や進学にどんな影響を与えるのか不安である。 ・募集停止になると、教員の数が減る。選択授業の科目選択は大丈夫なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職や進学等に関する指導や従来への授業を行うための教員の配置等については、今後とも努力していきます。
学区撤廃との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・学区制が廃止されている現在、海草地方の生徒数が減るから募集停止というのは矛盾している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総論「学区撤廃との関連」に同じ。
統合した場合の学校の在り方について	<ul style="list-style-type: none"> ・大成高校と海南高校を統合するならば、海南高校や周辺の学校の募集定員を増やしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・募集定員については、各地方別の中学校の卒業生数だけでなく、地域を越えた進路状況の実態等をふまえ多角的に検討しているところです。
	<ul style="list-style-type: none"> ・大成高校を統合後の学校の分校として存続できないか。 ・統合するならば、海南高校の普通科に特色を持たせるべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合後の学校の在り方については、現状での両校の優れた点を生かしながら、地域の実情等をふまえ、総合的に検討していきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・大成高校の単位制と海南高校の学年制の調整をどうするのか。 ・統合後の学校の校名はどうなるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制の扱いや校名などについても統合が決定した段階で、両校関係者による協議会等を設けるなどして検討していきます。
発表時期や意見の聴取について	<ul style="list-style-type: none"> ・大成高校の体験学習の3日後に募集停止の計画が発表された。体験学習に参加した子どもたちの気持ちを考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大成高校の体験学習については、結果として、発表直前の説明会実施となり、配慮が行き届かなかったことを申し訳なく思っています。

<ul style="list-style-type: none"> ・統合はしかたないと思うが、地域住民に対する説明をもっとするべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年8月26日に案を公表した後、県民意見募集（パブリックコメント）等を実施するとともに、適宜、説明会を行ってきました。さらに12月から4地域（大成、南紀、周参見、古座）に地域・学校協議会を立ち上げ、協議を重ねてきました。
<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の時代、統廃合はやむを得ないが、少子化は解っていたことであり、早急に対応しなかった県教委に問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再編整備にあたっては、生徒数だけでなく地域の実情や学校の取組等を含め、慎重に検討し進めていく必要があると考えています。

串本高校・古座高校について

項目等	意見等の概要	県教育委員会の考え方
存続について	<ul style="list-style-type: none"> ・古座高校は1学年1～2クラスの高校として存続できないか。また、少人数学級編制など地域の状況に応じた取組を行い、存続させることはできないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校にも利点はあると考えますが、弾力的な教育課程の編成や、教科・科目に応じた教員配置、学校行事や部活動の活性化が図りにくいといった課題があります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの個性や能力に応じた学校選択の可能性を減らさないでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の再編整備計画は生徒の興味・関心や進路希望の多様化に適切に対応した魅力ある高校づくりを進め、一人ひとりの生徒の力を伸ばす教育を推進するという観点から作成しました。
	<ul style="list-style-type: none"> ・古座町の発展のためにも古座高校を廃校にはできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再編整備にあたっては、充実した教育活動をどう展開するのかを第一義に考えることが大切であると考えていますが、古座高校の果たしてきた役割等についても、十分理解したうえで、18年度、19年度の生徒募集を行い、入学者の状況を見て判断します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・古座高校を串本高校の分校か校舎として存続できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合後の学校の在り方については、統合が決定した段階で、入学生徒の状況や地域の実情等をもとに総合的に検討していきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・古座高校は30人学級編制の中等教育学校として、再生することはできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育校の設置については地域バランス等を総合的に考慮して設置することにしています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・古座高校を全国募集をする水産高校として再生できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水産高校については、現状で、単独校として設置するだけのニーズはないと思われることから、難しいと考えています。

古座高校のこれまでの取組について	<ul style="list-style-type: none"> 古座高校は単位制や中高一貫などいろいろな取組をし、成果が出始めているから、もう少し計画の延期ができないものか。 	<ul style="list-style-type: none"> 古座高校のこれまでの教育活動の成果等を考慮し、平成18・19年度の入学者数の状況等を見ることにしました。
	<ul style="list-style-type: none"> 古座高校がなくなると、中学生の連携型中高一貫教育が途中でとぎれてしまうのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 統合した場合、中高一貫教育に係る取組の成果を反映できるようにしていきます。
通学上の課題	<ul style="list-style-type: none"> 遠距離通学となる生徒への対策はどうするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 総論「通学上の課題」に同じ。
統合後の在り方について	<ul style="list-style-type: none"> 古座高校の方が串本高校より教育効果をあげているのに、なぜ串本高校に統合されるのか。 古座高校は単位制だけれど、統合後の学校はどうなるのか。 統合後の高校は、古座高校の校舎を使用することはできないのか、統合後の校舎等の跡地利用はどうするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 統合した場合の学校の在り方については、それぞれの学校の教育活動や地域の実情等を勘案して決定していきます。
適正規模について	<ul style="list-style-type: none"> 適正規模が4～8学級というのは、経済優先の施策ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 総論「適正規模について」に同じ。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 古座の志願者が減少したのは、連携型中高一貫による「誰でも入れる学校」という評価が定着してしまったからではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> そうした状況があるとは認識していません。

南紀高校・熊野高校について

項目等	意見等の概要	県教育委員会の考え方
他学科との共存等について	<ul style="list-style-type: none"> 普通高校との共存や現状のような専門課程の独立校とした方がよいのでありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉系列を持つ熊野高校総合学科と看護科の共存は、実習施設の整備などによりよい教育環境を充実させていくことにより、双方にメリットが生まれると考えています。
	<ul style="list-style-type: none"> 熊野高校へ移設した場合、国の認可や施設・設備、看護実習等に問題はありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国の認可をはじめ、移設後の実習棟の整備や施設・設備の充実、医師会・病院等の協力など、よりよい看護教育が行えるよう努めていきます。
昼間定時制と看護科の併設について	<ul style="list-style-type: none"> 教室の使用の工夫や学外の施設の利用等により昼間定時制との共存ができるのではないですか。 また、費用対効果で考えれば、移設費用より現状の設備充実費用の方が有利ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護科の移設は、よりよい教育環境の整備といった観点から行うものです。 一方、田辺、西牟婁地方に昼間部を持つ定時制拠点校の設置は必要であると考えています。

卒業について	<ul style="list-style-type: none"> 熊野高校への移設は、入学時の約束と異なります。熊野高校の卒業ではなく、南紀高校での卒業でなくてはなりません。 	<ul style="list-style-type: none"> そうした意見をふまえ、平成17年度以前に入学した在校生については、南紀高校で卒業できるようにしました。
通学上の課題	<ul style="list-style-type: none"> 熊野高校への移設は、時間的・経済的負担が増加します。また、環境が変わるため、落ち着いて勉強に励みません。 	<ul style="list-style-type: none"> 総論「通学上の課題」に同じ。
昼間定時制の設置について	<ul style="list-style-type: none"> 少子化対策というが、移転の後になぜ昼間定時制を設置するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 昼間定時制の設置は、地元からの要望も強く、長年の懸案事項でもありました。今後、紀南地方の定時制拠点校として、より大きな役割を果たしたいと考えています。
周参見分校について	<ul style="list-style-type: none"> 廃校になれば、田辺・新宮間に定時制がなくなり、子どもたちが困ります。また、昼間定時制の設置に向け町あげて取り組んでいたのに、なぜ募集停止なのですか。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の入学者状況や地域のニーズをふまえ、南紀高校本校に昼間定時制を設け、定時制課程の充実を図ることにしました。また、周参見分校については18年度、19年度と生徒募集を行い、入学者の状況を見て判断することにしました。

新宮高校・新宮商業高校について

項目等	意見等の概要	県教育委員会の考え方
新宮商業の改革の在り方について	<ul style="list-style-type: none"> 新宮商業高校は、3年前に単位制にしたところであり、まだ単位制での卒業生も出ていない状況で、なぜ、再編整備なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 新宮商業高校については、これまでの単位制の取組等をふまえ、その成果を総合学科に反映させていきたいと考えています。
総合学科の内容について	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科を設置するとあるが、その内容はどのようになるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現行の商業科と新宮高校建設工学科の内容を持った系列や、教養系列等を設け、幅広い分野の学習ができる総合学科を考えています。具体的な内容については、今後当該校において検討を進めていく予定です。

和歌山工業高校・和歌山第二工業高校について

項目等	意見等の概要	県教育委員会の考え方
独立校としての存続について	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山第二工業高校の規模を充実し、縮小すれば、地域密着型の生産性のある学校となっていける。そのためには独立校であることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山工業高校と和歌山第二工業高校の2校を再編整備し、全日制と定時制を併置する工業高校にすることにより、これまで以上に施設・設備の充実や共有が図れるとともに、両校の持っている地域と

		のパートナーシップも継承できると考えます。
--	--	-----------------------

中高一貫教育校の設置について

項目等	意見等の概要	県教育委員会の考え方
設置等について	<ul style="list-style-type: none"> 小学生にまで競争と選別の教育を持ち込む中高一貫には反対である。 中高一貫教育の功罪について研究し、県民に広く知らせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学者の決定に際しては、受験競争の低年齢化を招くことのないよう、学力検査は実施せず、幅広い観点に立って選考できるように工夫しています。
	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育でエリートを特別に育成するよりも、30人学級実現などの教育条件整備に力を入れるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> エリート育成ということではなく、6年間の継続した学校生活を有効に活用し、生徒一人ひとりの個性や創造性を最大限に伸ばすことを目指しています。30人学級については、現在のところ想定していません。
	<ul style="list-style-type: none"> 新宮に併設型中高一貫校を設置するために、邪魔な連携型中高一貫校の古座高校を廃校にするのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> そういう意図は全くありません。
	<ul style="list-style-type: none"> 日高から100名近くが和歌山市内に通っているのは、地元ニーズにあった学校がないためである。 海南地方に中高一貫教育の計画がないのはどうしてか。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育校の設置については、全県的なバランスや学校地域の状況等を考慮するとともに、中高一貫教育校の形態や特色ある教育活動等を総合的に検討しています。